

議席番号・質問順位及び質問の件名

令和7年11月4日開会

質問 順位	議席 番号	中学校名	質問者氏名	質問件名(概要)
1	1	両小野	ほりうち じゅい 堀内 珠泉	駒沢川の親水公園について
2	2	辰野	いわもと しんご 岩本 紳吾	辰野町ウォーターパーク跡地の利用について
3	3	辰野	ちの ももこ 茅野 桃子	辰野中学校のユニバーサルデザインの普及
4	4	辰野	にいむら ゆうま 新村 悠真	ほたる祭りについて
5	5	辰野	みやいり さき 宮入 咲姫	辰野駅周辺の利用環境の改善について
6	6	両小野	いむろ あつ 飯室 篤	通学路のスピード抑制について
7	7	辰野	ぬくい たまき 貫井 珠喜	辰野町商店街近くの駐車スペースについて
8	8	辰野	いとう たけと 伊藤 毅人	街灯とカーブミラー整備について
9	9	辰野	たけい みお 武居 美音	SNS を使って町の PR をする
10	10	辰野	かわかみ あやな 川上 紋奈	空き家の利活用について

令和7年ほたるの里中学生議会会議録

1. 開会年月日 令和7年11月4日(火) 午後2時45分
2. 開会場所 辰野町議事堂
3. 議員総数 10名
4. 出席議員数 10名

1番	堀内珠泉	2番	岩本紳吾
3番	茅野桃子	4番	新村悠真
5番	宮入咲姫	6番	飯室篤
7番	貫井珠喜	8番	伊藤毅人
9番	武居美音	10番	川上紋奈

5. 地方自治法第121条により出席した者

町長	武居保男	副町長	山田勝己
教育長	宮澤和徳	総務課長	三浦秀治
まちづくり政策課長	高津稔	DX・地方創生担当課長	赤羽謙一
住民税務課長	桑原高広	保健福祉課長	矢島秀教
子育て応援課長	高倉健一郎	産業振興課長	丸山貴之
商工観光担当課長	菅沼隆之	建設水道課長	熊谷健司
会計管理者	上島淑恵	学校支援課長	竹村智博
学びの支援課長	福島永	辰野病院事務長	桑原さゆり

6. 地方自治法第123条第1項の規定による書記

議会事務局長 菅沼由紀
議会事務局庶務係長 原 梢

7. 地方自治法第123条第2項の規定による署名議員

議席第1番 堀内珠泉
議席第2番 岩本紳吾

8. 会議の顛末

○議会事務局長

ご起立願います。(一同起立)礼。(一同礼)

○議長(一ノ瀬咲耶さん)

定足数に達しておりますので、これよりほたるの里中学生議会を開会いたします。

議長の辰野中学校3年、一ノ瀬咲耶です。よろしくお願いいたします。最初に町長より挨拶を受けます。

○町 長

皆さんこんにちは。本日、ここに「ほたるの里中学生議会」を招集申し上げましたところ、辰野中学校から8名の方、両小野中学校から2名の方に議員としてご参加いただき、誠にありがとうございます。また本日、YouTubeで傍聴の生徒の皆さん、先生方をはじめとする皆様方にも改めて感謝を申し上げます。さらに、本日の議長を務められる辰野中学校生徒会副議長、一ノ瀬沙耶さんにおかれましては、進行についてどうぞよろしくお願いいたします。長引いた暑さも忘れるくらいこの時期らしい朝夕の寒さとなりました。山の木々も色づき始め早いもので今年もあと2箇月となっていました。議員の皆さんにおかれましては、いよいよ来春の高校受験を控え、自身の夢に向かって勉強に注力している毎日かと思えます。そうした中、町政への関心を深め、本議会への質問を用意してくださったことにつきましても、心より御礼を申し上げます。本日も公園、学校のユニバーサルデザイン、ほたる祭り、辰野駅周辺施設の利用方法、交通安全対策、下辰野商店街の駐車場、観光協会認定特産品のPRについて、また空き家の利活用等々10の質問を事前に通告いただきました。質問するテーマの設定、調査研究による仮説を立てて本日発表していただきます。町への夢や希望に繋がるご質問を拝見し、町としましても回答してまいりたいと考えております。本日の経験をもとに、まちづくりや議会、町の仕事に対し関心をさらに高め、町の発展に参加、ご協力いただくことをご期待申し上げ、議会招集にあたっての挨拶といたします。よろしくどうぞよろしくお願いいたします。

○議 長（一ノ瀬咲耶さん）

会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、議席1番、堀内珠泉議員、議席2番、岩本紳吾議員を指名いたします。事前に提出されました質問通告書に従い質問を許可してまいります。質問順位1番、議席1番、堀内珠泉議員。

【質問順位1番 議席1番 堀内珠泉 議員】

『駒沢川の親水公園について』

○堀内 珠泉 議員 （1番）

事前通告に従い質問をさせていただきます。駒沢川が一級河川で管理しているのは県であるようですが質問いたします。駒沢川にある親水公園に遊具や看板、レジャー

施設の整備を提案させていただきます。地元の方にお話を聞いたところ、「両小野中学校の生徒たちだけではなく、辰野町のほかの学校にも遊びに来てもらいたいのので、親水公園にキャンプやバーベキューができればいいな」とおっしゃっていました。僕もそう思います。現在、親水公園には親水公園だと示す看板や、子どもたちが遊べる遊具などがなく、多くの方がここをただの川沿いの場所としか認識していません。実際に僕もここが親水公園だということに気がつきませんでした。親水公園周辺にわかりやすい案内看板を設置すれば、地域にも親水公園の存在をもっと知ってもらえるので、両小野小学校の生徒たちが学習の一環として訪れるだけではなく、ほかの子どもや保護者、地域住民などの幅広い世代がもっと有効活用できると思います。そこで、次のような整備・活動を提案します。公園を紹介する案内看板をわかりやすい場所に設置すれば、認知度も上がると思います。そして遊具の設置です。ブランコや滑り台、トイレを設置することで子どもたちや親子連れ、高齢者の方たちが楽しめる場所になると思います。駐車場がないことも課題です。駐車場がなかったら小野区では利用しづらいので、親水公園の近くに駐車場の設置を検討してもらいたいです。そして親水公園には休憩所もありません。子どもたちが夏場、遊びに来る際に涼しい場所は川の中だけです。そこで東屋を建てたり、サクラやモミジの木などを植えてほしいです。東屋を建てることで日陰ができるうえ、春には花見、秋には紅葉狩りと季節ごとの楽しみも増えると思います。地元の人たちが参加できる自然体験のイベントの開催も提案します。親水公園と学校の連携で地域学習やボランティア活動の場としても活用できると思います。僕も親水公園に遊具ができたりイベントが開催されたら、ぜひ遊びに行きたいと思います。親水公園が観光スポット化したら、たくさんの方が集まる場所になり、小野地区がさらに発展すると思います。地域の人たちがもっと楽しく安全な場所になるように、看板や遊具の設置、イベント開催の検討、そして親水公園の観光スポット化を強く要望いたします。私の質問は以上ですが、答弁をお願いします。

○町 長

はい。親水公園の思いを質問いただきありがとうございます。小野にあります駒沢川ですが、過去に幾度もの決壊を繰り返しており、災害の都度悩まされておりました。そこで上流にダムを作る予定でありましたが、平成 15 年に治水利水ダム検討委員会というところで、ダム建設の見直しが検討されました。そのため、平成 16 年から 23 年にかけて、地元の駒沢川流域協議会の皆さんで協議を重ね、駒沢川の治水対策とし

て、ダムによらない河川改修により護岸を整備することに決まりました。河川工事を計画していく中で、令和4年1月27日に両小野小学校4年生から「親水公園の願い」という要望書をいただき、その内容をふまえ、長野県伊那建設事務所と協議会で話し合い、地域の皆さんに水に親しんでもらえる場所になるよう、現在の親水護岸にしていただきました。映像を映してください。両小野小学校では、総合学習の場として利用しています。よせ石で遊んだりして、水や生き物と親しむ様子であります。議員提案の遊具や東屋は河川沿いであることから、河川管理者である伊那建設事務所と維持管理の面で協議をする必要がありますが、ベンチや食事は地域の皆さんと検討してみたいと思います。またキャンプやバーベキューについては、大変面白いアイデアであり、地元の皆さんで開催するイベントの際にはとても良い企画になると思います。駐車場につきましては、個人の土地であり勝手に使えないため、案内看板も含めて小野区と相談しながら検討していきたいと思います。町でも大変素晴らしい場所として認識しており、たくさんの方が川に親しんでいただける場所として、末永く愛される河川にしていきたいと考えております。以上であります。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

堀内議員、よろしいですか。

○堀内 珠泉 議員（1番）

答弁に感謝いたします。以上で私の質問を終わります。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位2番、議席2番、岩本紳吾議員。

【質問順位2番 議席2番 岩本 紳吾 議員】

『辰野町ウォーターパーク跡地の利用について』

○岩本 紳吾 議員（2番）

私は辰野中学校3年岩本紳吾です。私たちはかつて辰野町にあったウォーターパークについて調べました。ウォーターパークは夏に水遊びをして楽しめる施設でした。しかし、年々利用者が減少したり維持費がとても高かったことから、残念ながら閉鎖してしまいました。この跡地をどうすればもう一度、人が集まる場所になるか私たちは考えました。岡谷市では屋外プールをスケートボードパークにしており、辰野町でもできるのではないかと思いましたが。川沿いの道路などでスケートボードをしている人をよく見かけます。道路で行っていると車と衝突などをすることがあり危険

です。さらに最近若者の間で流行っているパルクールもできるといいと思います。なぜならスケートボードだけではある特定の人しか訪れないからです。そこでパルクールもできる場所にすれば、子どもから大人まで利用しやすいと思います。そしてスケートボード及びパルクールができるパークにすると、自然が豊かな辰野町の材木などを利用しパークを作れます。スライドを映してください。このことから、交通事故を防ぐことができ、幅広い年齢層の人が利用し運動ができ、さらに辰野町の自然も活用することができます。辰野町にこの3つのメリットができ、ウォーターパーク跡地をあまりコストをかけずに利用し、近隣の市町村からも人を集められ町の活性化にも繋がるので、ウォーターパーク跡地をスケートボード及びパルクールができるパークにすることを提案しますがいかがでしょうか。スライドを消してください。辰野町ウォーターパークは、かつて多くの人が集まりたくさんの笑顔があふれた場所です。私たちはもう一度この場所、ウォーターパーク跡地をたくさんの方が集まって楽しめる、そして笑顔あふれる場所にしたいと思います。季節ごとに使い方を変えることで、町の新しい魅力も生み出せるのではないのでしょうか。以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○教育長

はい。岩本紳吾議員の質問にお答えをしたいと思います。荒神山のウォーターパークは議員言われるように、平成5年にオープンしましたがけれども、その後、利用者の減少、あるいは施設の老朽化等に伴い、16年に営業を停止いたしました。その後、管理棟はアラパに改修しプール跡地も含め、指定管理としてシンコースポーツという業者に運営管理を委託して現在に至っております。ウォーターパーク跡地については、令和7年3月に荒神山ウォーターパーク跡地利活用に資する基本構想がまとめられ、多目的広場として利用し、災害発生時には公園全体を避難施設、物資供給の拠点として使用することも視野に入れて整備することとされております。現在、流水プールの部分はサバイバルゲーム場として活用され、令和5年度には512人、令和6年度には1,192人、敷地の南側では3X3のコートを整備し跡地の活用も図られております。岩本議員におかれましては、岡谷の屋外プールなどを視察するなど、熱心に活用法を検討していただき感謝いたします。10月21日に、この辰野町町民会館で開催されました「キャリア教育上伊那 in 辰野町」においても、辰野中学校のキャリア教育の取り組みの活動の一例として、視察の様子を紹介されておりました。岡谷市の屋外プール

の管理もこのシンコースポーツさんですけれど、スケートボード場の運営につきましては、諏訪地域の愛好家が行っているということでございます。教育委員会としましても、スケートボード施設を設置できないか、このシンコースポーツさんと何回か相談をしてきております。コースの設定には専門的な知識が必要で設定が難しいことから、まずはスケートボードを楽しむ場所の提供ができないかという回答をいただきました。シンコースポーツさんも何とかスケートボードできる方策を考えているということでございます。もう一方のパークール施設についてですけれど、競技の性質上、危険が伴いますので設置は難しいようではありますが、実現できそうなことがないか相談していきたいというふうに思っております。また、基本構想を事業化する際は、公園の活用方法の1つのアイデアとして、検討できればというふうにも考えておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

岩本議員、よろしいですか。

○岩本 紳吾 議員（2番）

辰野町ウォーターパーク跡地を、スケートボード及びパークールができるパークについてご検討いただきありがとうございます。前向きなご検討をいただき嬉しいです。以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位3番、議席3番、茅野桃子議員。

【質問順位3番 議席3番 茅野 桃子 議員】

『辰野中学校のユニバーサルデザインの普及』

○茅野 桃子 議員（3番）

私は辰野中学校3年生の茅野桃子です。私たちは住み続けたいまちをテーマに、辰野町のユニバーサルデザインについて調査を進めてきました。私たちが思う住み続けたいまち外国の方も住みやすく、高齢者や子どもそして障がいのある方も困らないような町です。そのためには、外国語表記の案内板やピクトグラム、スロープなどのユニバーサルデザインが必要だと考えました。仮説が正しいのか調べるために、第1回まち調査では、町にあるユニバーサルデザインを探す調査を行いました。私たちが調査を進めると辰野町役場では英語表記のあるエレベーターやベビールーム、車いす利用者の方も使いやすい公衆電話などが設置されておりました。耳が聞こえにくい

方への配慮として、軟骨伝導イヤホンも使えるようになっており、エレベーターの中には防災用の椅子が設置されていました。このように辰野町ではすでにユニバーサルデザインが多く取り入れられていることがわかりました。そのため、第2回まち調査では、辰野駅と辰野中学校を調査し現状を確かめることにしました。駅にはスロープがついておらず、ユニバーサルデザインはあまり整っていない印象でした。ただし駅にスロープを付けるのは難しいということで、今回は辰野中学校のユニバーサルデザインに絞って調査をすることにしました。辰野中学校を調査すると、職員玄関にはスロープがついていましたが、生徒用玄関にはなく段差が多いように感じました。私は普段の生活でユニバーサルデザインがなくて不便に思った経験はありませんが、この前、私の知り合いが階段で困っている場面を見かけました。その人は足を痛めており、階段を降りるときに不便に感じているようでした。このことから、私が知らないだけで、生徒の中には学校生活で困った経験のある人がいるのではないかと考えました。そこで、3年生の皆さん30人にアンケートの協力をお願いしました。スライドを映してください。こちらがアンケートの結果です。辰野町での日常生活でユニバーサルデザインの必要性を感じる人は少ないようですが、3分の1の人は学校生活の中でユニバーサルデザインを必要としていることがわかりました。スライドを消してください。そこで質問します。辰野町として、辰野中学校にユニバーサルデザインを広げていくことはできないでしょうか。アンケートの結果を見ると、エレベーターをつけて欲しいという人がいましたが、現実的ではないと思うので小さなことから始めてはどうでしょうか。例えば生徒用玄関にスロープをつけ、段差をなくすなどの工夫を考えました。そうすることで、中学校生活をより気持ちよく過ごせるようになると思います。以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○教育長

はい。茅野桃子議員の質問にお答えをしたいと思います。ただいまの質問にありました住み続けたい町、これはどんな町なのかをまず考えていました。外国の方、高齢者や子ども、障がい者のある方も困らない町とありました。まさにそのとおりだと思います。では誰もが住み続けたい町を実現するためにはどうすれば良いのか。私たちの社会には、外国にルーツのある方、高齢者や子ども、障がい者、貧困、宗教などあらゆる方々が暮らしております。このような社会で起こりがちなのが、マイノリティの方、マイノリティというのは少数派の方ということですね、マイノリテ

ィの方が不平等な扱いを受けること、あるいは差別を受けてしまうことです。障がいの有無や国籍、年齢など多様な背景を持つ方たちを分け隔てなく受け入れていくこと、これをインクルーシブとこう呼びますがけれど、このインクルーシブの考え方を我々一人ひとりが受け入れていかなければなりません。このような考え方が住み続けたい町をつくる第一歩であると思っております。その考えの上で、誰もが使いやすいデザインを取り入れていくことが必要であるというふうに思います。現在、辰野中学校内においても、ユニバーサルデザインを取り入れているものがいくつかあります。色覚異常の生徒に向けて、ユニバーサルデザインチョークこれを使用していること、あるいは弱視の生徒には矯正眼鏡を使用すること、デジタル教科書の読み上げ機能や拡大機能、呼んでいる部分の色を変える機能、また、アレルギー対応した給食など身体的に不自由な生徒向けに多くの場所で配慮がなされております。質問の中にエレベーターの設置とありましたけれど、議員言われるようにこれは多額の費用が要するので、なかなか容易なことではありません。段差は議員言われるように生徒玄関ではなく、構内あらゆるところにあります。これからも身体的に不自由な方への対応や様々な方への配慮が行き届く学校環境を、教育委員会としましても目指していきたいというふうに考えております。まずは、できる部分から取り組んでまいります。生徒の皆さんも、インクルーシブの考え方をぜひこれからも取り入れていただければというふうに思います。また周囲の皆さんにも啓発していただけるとありがたいと思います。以上です。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

茅野議員、よろしいですか。

○茅野 桃子 議員（3番）

教育長のご答弁のおかげで、学校でのユニバーサルデザインを新たに知ることができました。アンケートにもあったように、3分の2の人はユニバーサルデザインを必要としていないと答えました。それはユニバーサルデザインが広く認知されていないからではないでしょうか。ユニバーサルデザインが広がれば、きっと今よりも過ごしやすくなります。もし今すぐのスロープなどの設置が難しいようなら、役場からユニバーサルデザインの認知度を広めていくことはできないでしょうか。実際、私も調査を進める前は役場の軟骨伝導イヤホンやベビールームの存在を知りませんでした。広報たつのやほたるチャンネルなどでもっと宣伝するのもいいと思いますがいかがでし

ようか。

○教育長

はい。ただいまありがとうございます。これからの時代における学校というものをイメージしたときに、誰もが安心安全で暮らせる生活できる学校、これを実現していかなければならないんだろうというふうに思っております。そうしますとどんな小さなことでもやっぱり、万が一厳しいという生徒がいまいかどうかってそんな視点で見えていくってことは非常に大事だろうなと思っております。特に障がいがない人にとっては何でもないことであってもね、障がいのある方、ハンディのある方にとってみますと、それが非常に大きな何ていうんですかねなりますのでね、そこら辺については考えていかなきゃいけないというふうに思っております。ですから誰もが学校生活を安心して生活できる、安心して学べる、ここは教育委員会としても本当に大事に考えていきたいと思っておりますし、この部分においては教育委員会だけじゃなくて、町もきっと同じだと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

茅野議員、よろしいですか。

○茅野 桃子 議員（3番）

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位4番、議席4番、新村悠眞議員。

【質問順位4番 議席4番 新村 悠眞 議員】

『ほたる祭りについて』

○新村 悠眞 議員（4番）

私たちは住み続けたい町をテーマに辰野町について調べてみました。安全な町、景気のいい町、町民が自慢できる町などが住み続けたい町のイメージとして浮かんできました。私たちは自慢できる町としてほたる祭りに着目しました。辰野町といえばやっぱりほたる祭りです。住民の自慢であり、たくさんの方が集まる夏の大イベントです。ほたる祭りを全国に広げられたら辰野町の良さが伝わって、町民がもっと自慢できる町になるのではないかと考えました。そこで、私たちは町の盛り上がりを取り戻すために、歩行者天国の範囲を広げることが大切だと考えました。スライドを映してください。昔は伊那富橋までではなく、伊那富橋を超えて宮木側のいずみ塾の

前の通りまで歩行者天国だったそうです。今よりも広くすれば、家族連れや観光客がゆっくり歩いて、安全で楽しいお祭りになると思います。人が分散することで混雑も減り屋台の出店場所も増えるかもしれません。しかし人が来なかったら意味がありません。そこで町の中で調査や取材をしました。スライドを消してください。調べてみるとポスターの数が少なかったり、SNSの発信があまりされていなかったりすることがわかりました。役場の方にお話を聞いたときも「SNS広告は若い人には届くけれど、テレビはお金がかかるし新聞広告は手元に残って一番いい」というお話を聞きました。このことから私たちはSNSと紙のどちらとも大切だと思いました。SNSで写真や動画を発信すれば、県外の人にも辰野町の魅力を伝えることができます。特に町長さんご自身が動画で発信したら、とても親しみやすく町の元気も伝わると思います。一方ですべてをスマホに頼る時代だからこそ、紙のチラシや新聞など手に取って見られる周知も必要です。お年寄りの方やスマホを使わない方にも届くようにポスターを増やしたり、期間を長くしたりして、もっと町内でほたる祭りが近いと感じられるようにしたいです。私は辰野町がもっと元気で自慢できる町になるように次の3つを提案します。スライドを映してください。1. 歩行者天国の範囲を広げて、もっと賑わいのあるお祭りにすること、2. 町長がSNSで動画を使って発信すること、3. 紙のポスターや新聞広告など手元に残る周知を大切にすること、スライドを消してください。これらを組み合わせていくことでホタルの町辰野をもっと多くの人に知ってもらえると思います。町長はこれらの提案についてどのようにお考えでしょうか。以上で私の質問を終わります。

○町 長

はい。ただいまは新村議員のご質問またご提案ありがとうございました。まず歩行者天国の範囲についてですが、屋台の減少などにより距離が短くなってきた経緯がございます。範囲を広げることによって、安全にゆっくりお祭りを楽しめるなどのメリットもありますが、交通規制の場所が増えることで、警備員の増員にお金がかかったり、またそこで暮らす住民の方が不便になったりというデメリットもあります。ゆっくりお祭りを楽しめるプラスの面と、お金がかかることや地元住民が不便になるというマイナスの面等を考えて、現在の歩行者天国の範囲に落ち着きました。さらに新型コロナの影響で、屋台を止める人が増えているということも、歩行者天国の範囲を決める上で判断材料になっております。ですが、安全で楽しめる歩行者天国にしてい

たいと思うのは、私も皆さんも同じでありますので、歩行者天国のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。続いて、動画でほたる祭りのメッセージを発信することについてであります。今年は動画を使ってほたる祭りを PR してみました。後ほど武居美音議員の答弁で、町の動画をご紹介したいと思えますが、その中にほたる祭りの PR 動画もあります。辰野町のイメージキャラクターぴっかりちゃんが PR をしています。ぴっかりちゃんに登場してもらい、ぴっかりちゃんからメッセージを送ってもらった方が、特に若い人に注目してもらえるのではないかと考えています。そして次は、いかにその動画を実際に見てもらえるかが大事であります。中学生の皆さんの感性で、どうすれば多くの人に見てもらえるか、ぜひ知恵を貸していただきたいと思えます。一方、紙を使った周知方法も大切であるとのことご提案です。紙は一目で全体を見渡すことができ、何より SNS よりもサイズが大きいという強みがあります。紙を使った方法、つまりポスターやチラシを町内外のいろいろな施設やお店で貼ってもらったり置いてもらったり、新聞広告で皆さんにお届けしたり、様々な方法でほたる祭りを PR しているところでもあります。これからも SNS とともにポスターをより多く、より早く貼るなど、これまでの紙による周知方法を続けながら、ほたる祭りを多くの人に知ってもらえるよう努めたいと思えます。「ほたるの町・辰野」が日本中に知ってもらえて、そして中学生の皆さんがふるさとは「ほたるの町・辰野」だと、自慢できるようになれば私にとってはとても嬉しいことでもあります。以上です。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

新村議員、よろしいですか。

○新村 悠真 議員（4 番）

歩行者天国の範囲を広げることで、町民の皆さんに迷惑がかかったり、お金がたくさんかかるとおっしゃっていましたが、それは SNS を使ったりしてクラウドファンディングなどを使ったりしたら、解決できるかもしれないですし、それをすることによって SNS でも広まっていくと思えます。その点についてはどのようなお考えですか。

○町 長

はい。ご提案ありがとうございます。実際にほたる祭りにおける歩行者天国区域の周辺の皆さんはですね、例えば会社勤めの方は時間をずらして帰ってくるとか、最悪の場合、他の町の宿泊施設に泊まってきたりしたりするというようなことも聞いております。非常に影の部分で地域住民の皆さんの協力がなければ、歩行者天国が実施で

きないということも事実でありますので、そこら辺は理解していただきたいところ
あります。ただ、今、新村議員がおっしゃったとおり、いろいろな方法もあると思
いますので、皆さんが本当に満足していただけるお祭りを目指して検討してまいり
たいと思います。よろしく願いいたします。

○議 長（一ノ瀬咲耶さん）

新村議員、よろしいですか。

○新村 悠眞 議員（4 番）

以上で終わります。ありがとうございました。

○議 長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位 5 番、議席 5 番、宮入咲姫議員。

【質問順位 5 番 議席 5 番 宮入咲姫 議員】

『辰野駅周辺の利用環境の改善について』

○宮入 咲姫 議員（5 番）

私は辰野中学 3 年の宮入咲姫です。私たちは住み続けたい町をテーマに辰野駅
周辺の様子について調査をしてきました。私たちにとって住み続けたい町とは大
学や仕事によって町を離れた人も、また帰ってきたいと思えるまち、若者が多く訪れ
友だちと遊んで勉強したりすることができる町だと考えました。そこで私たちは、駅
周辺の利用環境の改善をテーマに調査を行いました。実際に中学生の私たちが求めて
いるものとして、友だちと集まって自由に勉強をしたりすることができるフリースペ
ースを考えました。それに加え来年から高校に通うことを考慮し、気軽に立ち寄れる
場所として駅周辺を調査しました。そこで辰野駅周辺には駐車場や駐輪場などがたく
さんありましたが、自由に使えるスペースはほとんどないことがわかりました。一方
で、商店街には「茶の間」という世代間交流センターがあり、そこには無料で利用す
ることができるフリースペースやセリフドリンクコーナーが設けられていました。小
さな建物ですが、まさに私たちが思い描いていた誰でも気軽に立ち寄れる場所に近い
ものでした。しかし、今の状態では不十分であることから、隣の箕輪町にある「みの
わベース」という交流施設との違いを調べました。スライドお願いします。そこでわ
かったことは、「茶の間」自体に学生向けというイメージや雰囲気がなく、気軽に立ち
寄ることができないこと、人目が気になってしまうことです。実際にみのわベースを
利用したとき、多くの利用者が学生であり人目が気にならず入ることに何も抵抗がな

いと感じました。私たちは辰中の全校生徒にもアンケートを取りました。もし駅周辺にフリースペースがあったら利用したいですかという質問に対して、55.9%の生徒が利用したいと回答しました。フリースペースができれば整っていて欲しい環境設備では、フリーWi-Fiがあったり、冷暖房や飲食スペースがあるような場所などを求める声が多くありました。これらをふまえて質問をします。辰野駅周辺に学生や町民が気軽に立ち寄れるフリースペースを作れないでしょうか。しかし、新しく施設を建てるにはコストと時間がかかってしまい実施が難しいと考えられます。その場合には今ある「茶の間」や「フューチャーセンター」などの施設をより利用しやすくなるよう、机などのレイアウトを変えたり、学生向けに改修することはできないでしょうか。勉強したり友だちと話せたりする場所があれば、駅に人が集まり駅全体が今よりも賑やかになると思います。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○町 長

ただいまは宮入議員より住み続けられる町をテーマに、辰野駅周辺の活性化に繋がる居場所づくりについて、大変貴重なご意見をありがとうございます。駅周辺に友だちと自由に集まって勉強できるフリースペースが欲しいというご要望は、これからの町を担う中学生の皆さんが安全で心地よい環境で学習や交流を深めたいという思いがあると受け止めております。皆さんが感じているように、自由に過ごせる場所、勉強や交流を楽しめる空間が必要だという声は、これからのまちづくりにおいて大切にしなければならないポイントだと思っております。現在、辰野駅周辺には2つの施設「茶の間」そして「信州フューチャーセンター」があります。それぞれの施設の特徴を改めて説明させていただきます。「茶の間」は多世代の方が交流できる施設で、Wi-Fi環境も整っており、学生の皆さんにも使っていただける環境があります。月曜日から土曜日の午前9時から午後8時まで開館しております。これまでも勉強のために、夏休みや高校受験前に中学生にご利用いただいております。「信州フューチャーセンター」は「茶の間」と同様に多世代が利用できる施設でWi-Fi環境も整っており、火曜日から日曜日の午前10時から午後6時まで、日曜日は午後5時まで開館しております。施設の半分は主にカフェスペースでもう半分は50人ほどが入れるスペースで、ベビーマッサージ教室、絵本の読み聞かせなど、様々な講座やワークショップを開催しております。また、毎週水曜日の放課後時間には、ボランティア団体が主に小学生に学習支援などをしており、子どもたちが気軽に立ち寄れて安心できる場所づくりを

目指しております。皆さんからいただいた意見を受けて、まずは「茶の間」の利用について管理をお願いしている社会福祉協議会とも相談しながら、学生向けに利用しやすいように変更したいと考えております。どんな形が利用しやすいのか、具体的に教えていただければと思います。信州フューチャーセンターについては、施設の性質上、中学生がより利用しやすい形にするには少し工夫が必要となるため、今後の課題とさせていただきます。辰野駅周辺からは外れますが既存の施設として、図書館の学習室や交流スペース、町民会館のエントランスホールや学習室の一部を開放しており、主に中高生にご利用いただいております。また、宮木駅周辺への居場所の確保についても、中高生やその保護者からご要望を聞いております。既存の民間施設の活用を含めて、新たなスペースが確保できないか探っているところであります。町としては、若い世代の声をしっかりと受けとめ、反映させることを大切にしております。皆さんの声は新たな視点をもたらし、今後の町の発展に欠かせない意見であります。今後、若い世代の声を聞く機会を設けるなど、皆さんが町に対して持っている意見やアイデアを積極的に取り入れながら住み続けたい町を、また帰ってきたいと思える町を目指していきたいと思います。どうかこれからも積極的に意見を出し合い、私たちと一緒により良い町をつくっていきましょう。よろしく申し上げます。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

宮入議員、よろしいですか。

○宮入 咲姫 議員（5番）

私がこの調査を進めている際も、友だちとの会話内で「近くに勉強できる場所あったらいいのに」というように話題に上がったことがありました。ぜひ前向きにご検討いただきますようよろしくお願いいたします。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

ただ今より、暫時休憩とします。再開時間は15時45分とします。

休憩開始 15時30分

再開時間 15時45分

○議長（一ノ瀬沙耶さん）

再開いたします。質問順位6番、議席6番、飯室篤議員。

【質問順位6番 議席6番 飯室 篤 議員】

『通学路のスピード抑制について』

○飯室 篤 議員 (6 番)

私は両小野中学校 3 年の飯室篤です。これまでの中学生議会で先輩たちがした質問への答弁で、多くの施策が実現されたことに感謝いたします。今回私はゾーン 30 の認識強化と適用範囲の拡張、グリーンベルトの塗り直しを要望いたします。ある日、通学途中で忘れ物を取りに戻ったとき、ものすごいスピードで走る車にひかれそうになりとても怖かったです。また、通学中に「小学生が道路の端を歩いていて危ない」「道が狭くて車とすれ違うのが怖い」という声を学校内で聞き、この問題について自分で調べてみました。地域の道路では、車のスピードが速くて危ないと感じることがあります。特に両小野小学校や保育園、高齢者施設の近くでは、歩行者が歩いているのに車がスピードを出しているのが、事故が起きそうでとても不安になります。また、辰野町町内ではゾーン 30 が少ないように思います。特に辰野町中学校の通学路にゾーン 30 を増やしてみるのはいかがでしょうか。さらに、まだゾーン 30 になっていない通学路への適用範囲拡張も強く願います。ゾーン 30 は、車の速度を 30 キロに規制し、歩行者や自動車の安全を守るためにとっても大切なことです。適用範囲を今よりさらに広げると、地域の安全性が高まると思います。またゾーン 30 の区域入口に標識をしっかりと設置し、ドライバーに確実に知らせることも必要です。標識が目立ちゾーン 30 とわかると「ここには人も歩いている」という認識がより強まり、運転する人の意識も高まりスピード抑制効果が期待できます。次に大切なのは、グリーンベルトの整備と塗り直しです。今の通学路ではグリーンベルトが薄くなっている場所が多く、小学生や高齢者が道路にはみ出して歩いている光景をよく見かけます。これはとても危険です。グリーンベルトは歩行者と車の歩行空間を視覚的に分ける役割を持っていて、歩く人にとって安心感だけではなく、運転手に人が歩く場所を意識するきっかけになります。グリーンベルトがしっかりと整備されていれば、車も自然と歩行者に注意して運転するようになると思います。私は両小野小学校や保育園の周辺において交通事故を防ぎ、地域に住むすべての人が安心して暮らせる環境を作るために、とても重要なゾーン 30 の確認強化と適用範囲の拡張、グリーンベルトの塗り直しを強く要望します。特に両小野中から五差路の間のグリーンベルトが薄くなっていて危険だと思います。これからも安心して通学し、地域の人と触れ合える安全なまちになるように、こうした対策をしっかりと進めてほしいと思います。現状として、ゾーン 30 のグリ

ーンベルト設置で速度抑制ができていないので、さらなる対策として道幅を狭める狭窄や道路を盛り上げるハンプの設置も合わせて提案いたしますが、ご答弁願います。

○町 長

はい。ただいま飯室議員のご質問にお答えさせていただきます。辰野町の中で一番初めにゾーン 30 を指定した箇所が実は小野地区の箇所となります。設置された経過については、平成 25 年に地元の皆さんからゾーン 30 の設置要望がありました。この要望を受けて、長野県公安委員会へ要望し、平成 25 年 8 月に伊那警察署が小野の皆さんへ説明会を実施しまして、平成 26 年度に事業として採択され、平成 27 年 3 月に整備が完了いたしました。ゾーン 30 の適用範囲の拡張については、近隣住民や地元の皆さんの承諾を持って初めて公安委員会に要望ができます。町としても、毎年の通学路点検に加え、平成 24 年、令和元年、令和 3 年にも緊急通学路合同点検及び園児のお散歩コースの点検も実施しております。緊急通学路合同点検で、要対策箇所となった箇所について、順次整備・対策を実施しております。また、法改正により、令和 8 年 9 月 1 日から、センターラインのない道路や幅員の狭い道路、生活道路等において、これまでは 60 キロ規制でありましたが、30 キロ規制へと改正される予定となっております。詳細につきましては担当の、実は小野出身の建設水道課長よりお答えいたします。

○建設水道課長

それではお答えします。ゾーン 30 への更なる抑制対策として、道路管理者が全国的にも設置している事例がありますので、紹介させていただきます。映像を用意しました。写してください。まず議員ご指摘のハンプのイメージです。議員おっしゃるように、赤いところが山のように盛り上がっています。スピードを抑制する反面、一方でハンプを設置した箇所の振動や騒音といった問題があります。切り替えてください。クランクのイメージです。道路がジグザクになっていたり直角になっているところもあります。切り替えてください。スロームのイメージです。カーブになっていてスキージの回転競技にありますように、S 字による抑制になります。消してください。こういった施設とゾーン 30 を組み合わせたものを、ゾーン 30 プラスといいます。こういった施設は安全対策としては効果的です。町では路面標示で視距的に速度抑制ができる対策を今後検討していきたいと思っておりますが、まずは地元の皆様の合意が必要となってまいります。次にグリーンベルトの設置、引き直しについてのご質問にお答

えします。町では協働のまちづくりの観点から、グリーンベルト設置や引き直しの作業については、地元の皆様の協力を持って行っております。昨年度も辰野中学校の通学路において、地元平出区、中学校 PTA の皆様のご協力、新たに設置している箇所がございます。現在、設置されているグリーンベルトの引き直しについては、中学生議会においてご要望いただいたことを地元の区長会等にお伝えして、理解をいただきながら、さらに交通安全に取り組んでまいりたいと考えておりますので、議員におかれましても気をつけて通学していただくようお願いします。以上です。

○議長（一ノ瀬沙耶さん）

飯室議員、よろしいですか。

○飯室 篤 議員（6 番）

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬沙耶さん）

進行いたします。質問順位 7 番、議席 7 番、貫井珠喜議員。

【質問順位 7 番 議席 7 番 貫井 珠喜 議員】

『辰野町商店街近くの駐車スペースについて』

○貫井 珠喜 議員（7 番）

皆さんこんにちは。辰野中学校 3 年貫井珠喜です。私たちは、住み続けたいくなるまちをテーマに、辰野町の商店街について調べました。改めて私たちの思いとしては、辰野町商店街をもっとたくさんの人に知り利用してもらいたいということです。そこで鍵になってくるのが、若者が中心となって活動しているトビチ商店街です。トビチ商店街は空き店舗を無理にうめるのではなく、飛び飛びのお店でもいいから楽しもうという発想で作られたユニークで素敵な取り組みです。移住してきた若者によって始められたこの活動は、インターネットなどを利用し、知名度を上げてきています。しかし、昔からお店を続けてきた高齢の方々の中には、この新しい動きに戸惑っている方もいました。「若者の活動にどう関わっていったらいいのかわからない」などの声が聞かれ、双方の世代でまだしっかり団結ができていないという課題があることがわかります。また町はトビチ商店街の活動を応援していますが、まだ十分な支援はできていないという現状もわかりました。町の方々への聞き取りでは「この町は移住者を多く受け入れているとても素敵な町だ」というような移住者のお店が多いトビチ商店街に対する前向きな意見も聞かれました。そこで私たちはトビチ商店街をもっと盛り

上げるには、町内外の方が訪れやすい環境をつくるのが大切だと考えました。現状、辰野町商店街は日中、夜間関わらず人通りが少なくどこか寂しい印象です。今回の調査で改めてトビチ商店街の良さを知った今、こんなに素敵な商店街を訪れてもらえないのは本当にもったいないことだと私は思います。もっとたくさんの人に商店街に来ていただくために、私は商店街の近くに広めの駐車場をつくることを提案します。今回、辰野商店街と比較して調査した伊那の通り町商店街にはいくつも駐車場が整備されていました。車社会の今、駐車場があるだけでちょっと寄ってみようという人が増えるのではないかと思います。立ち寄ってくれる人が増えれば、お店の売り上げも増え経営に悩む地元の古くからのお店の繁盛にも繋がります。先ほど課題として挙げた双方の世代でしっかり団結ができていないという点も、商店街が賑わいを取り戻すとともに解決していけるのではないのでしょうか。どちらのお店の良さも活かした商店街にできれば、様々な年代の方が訪れたいと思える最高に素敵な場所になると思います。そんな商店街をつくるための第一歩として、私はこの駐車場の設置の案を提案します。もう一度、商店街が賑わいを取り戻すために、ぜひ町全体でこの動きを支えてくれることを検討していただきたいです。ぜひ町長のご意見をお聞かせください。

○町 長

ただいまは貫井議員より商店街トビチ商店街に対する温かい想い、聞かせていただきましてありがとうございます。このトビチ商店街の活動については、商店街を多くの皆さんに利用してもらうことを目的とした新しい動きでありまして、町としても応援しているところであります。私は町長に就任する以前、辰野町商工会で働いておりました。商工会に就職したのは40年近く前のことではありますが、ちょうどその頃、商店街の駐車場不足が問題となってきたところでありました。そのため商工会では、商店街のいくつかのお店がお金を出し合って、駐車場を確保する共同駐車場という取り組みを行いまして、お客様は自由に止めることができるようになりました。商店街のいくつかの箇所にですね共同駐車場ができましたけれど、広い駐車場がある大型店が、その当時、次々とできてくるのに伴いまして、商店街に来るお客様の足が遠のいてくるようになってしまいました。そしていつの間にか共同駐車場もなくなってきた、そんなような経緯をたどっております。現在では下辰野商店街の近くには来られた方が誰でも気軽に止められる広い駐車場がほとんどありません。一方で、トビチ商店街には実は駐車場が2つありまして、合計で57台止めることができます。

ですが、目立ちにくいところにあります。今後、トビチの駐車場ということがわかる看板を設置できないかお願いしてみたいと思います。また他方では商店街にあるそれぞれの店が、自分のお客様のために自分でお金を払って確保している駐車場もあります。商店街にある土地や建物はすべて持ち主の方の大事な資産でありますので、今のところ新たに広い駐車場を作るといことはなかなか難しいことですが、貫井議員が言われたとおり、商店街の賑わいを取り戻すためには、町内外の方が訪れやすい環境をつくるのが大切だと私も思います。引き続き、商店街の皆さんや地元の皆さんと意見交換を行いながら、駐車場ができるよう検討していきたいと考えております。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

貫井議員、よろしいですか。

○貫井 珠喜 議員（7番）

ご答弁ありがとうございます。共同駐車場の件、今、私初めて知りました。そこは無知ですいませんでした。町内外の方が訪れやすい環境を作っていくために、広い駐車場は土地の問題や費用など、いろいろ問題があると思いますので難しいかもしれませんが、小さめなものでもいいのでぜひ前向きに検討していただけたら嬉しいです。駐車場設置の件以外でも私たち中学生ができること何かあれば、お力添えになれば嬉しいのでぜひお声掛けください。以上で私の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位8番、議席8番、伊藤毅人議員。

【質問順位8番 議席8番 伊藤 毅人 議員】

『街灯とカーブミラー整備について』

○伊藤 毅人 議員（8番）

私は辰野中学校3年の伊藤毅人です。私たちは住み続けたくなるまちについて考えてきました。私の思う住み続けたくなる町は安心して暮らせる町です。そこで街灯と道に注目し調査をしました。調査をしてみると、町の中心部は街灯も多く夜でも明るく感じました。ですが少し外れた道、例えば田んぼに囲まれた道や住宅の間の細い道では街灯が少なく、夜になるととても暗い場所が多いことがわかりました。またカーブミラーが汚れていたり、そもそも設置されていない場所があり、夜に歩くととても怖いと感じました。これでは小中学生や高齢者の方が夜に安心して歩けません。これらのことを通して私は2つのことを提案します。スライドを映してください。1つ目

は、街灯と町道の整備についてです。辰野中学校の前にある辰野パンを曲がったところの1本道が狭い上に街灯が少なく、夜に暗いため自転車や歩行者が接触する可能性があり危険だと思います。また以前、私の友だちが暗くて道がしっかり見えないため、隣にある水路に落ちてしまい怖い思いをしたと聞きました。街灯を増やせばこのような事故を防ぐことができると思います。2つ目はカーブミラーの整備についてです。荒神山入り口の三差路からパークホテルへ行く道が、車が来てるか歩行者が来てるかどうかどちらもわからなくてお互いに危ないです。カーブミラーも設置されていますが、目立たない場所にあり、そこを通過して行く多くの車がカーブミラーの存在に気付かず、見にくそうにしながら道路を確認していました。荒神山はスポーツ施設が充実しており、子どもから大人まで多くの人利用できる便利な場所です。そのため人通りや車の往来も少なくはありません。利用者が安心して荒神山に来られるようにするためにもカーブミラーを設置するべきだと思います。スライドを消してください。今日は時間に限りがあるため2箇所しか提案できませんでしたが、街灯や道の整備が必要な場所はまだまだあると思います。辰野町には自然が多く、星がきれいに見える場所もあります。だからこそ、あえて暗さを残す場所を作ることも大事だと思います。ですが辰野町に住んでいる人の安心を優先することも大事だと思います。安全と自然の両立を目指してこれからまちづくりを考えていただきたいのですが、町長の考えをお聞かせください。

○町 長

はい。伊藤議員におかれましては地域の街灯や道路の状況を調査していただきありがとうございます。安全で住みやすく、事故や犯罪のない町にするために、街灯やカーブミラーを増やしていきたいと考えています。まず、街灯のご質問です。照明には、設置の目的により数々の種類があり、主要道路の交差点や横断歩道を照らす道路照明、街路や商店街を明るくする街灯、通学路や生活道路など比較的狭い道路で、防犯上の視点から設置している防犯灯などがあります。それぞれ管理者が異なり、道路照明は道路管理者である長野県や町、商店街等にある街灯は、商店や沿線の皆さんが管理しています。防犯灯については、地域の区や町内会の皆さんが管理しています。ご質問の地域は住宅も増えてきておりますので、平出区と相談しながら検討していきたいと考えております。次にカーブミラーのご質問です。カーブミラーの設置につきましても、現場において実際に設置が可能か、お住まいの皆さんと十分話し合っ

ら設置をしています。ご提案の荒神山に行く道路については、現場を調査して大勢の皆さんの意見を聞きながら対応したいと考えております。町では交通安全事業を大変重要な課題と位置付けており、毎年、PTA 要望や地域の皆さんの要望に対し、通学路の危険な場所を調査し、安全で住みやすい町にしたいと考えております。引き続き、議員におかれましても、調査していただきたいと思っております。また、街灯があっても夜道は大変危険でありますので、反射材等を身につけて明るい服装で通学していただくようお願いいたします。以上であります。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

伊藤議員、よろしいですか。

○伊藤 毅人 議員（8番）

ありがとうございました。以上で私の質問を終わります。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位9番、議席9番、武居美音議員。

【質問順位9番 議席9番 武居 美音 議員】

『SNSを使って町のPRをする』

○武居 美音 議員（9番）

私は辰野中学校3年生の武居美音です。私は住み続けたくなるまちをテーマに、辰野町をどのようにPRしていけば、もっと多くの人に魅力が伝わるのか調べました。私が思う住み続けたくなるまちとは、賑やかで楽しくイベントが多く、町全体に活気がある町です。そのためには町のいいところをもっとたくさんの人に知ってもらうことが大切だと思いました。そこで私はSNSを使って辰野町をPRすることをテーマに探求しました。私は第1回、第2回の調査を通してわかったことは、辰野町の特産品は、観光協会の認定を受けたものが販売でき、認定シールを貼っているということなどを知りました。一方でSNSを活用して商品紹介したり、オンラインで発信したりする取り組みはほとんど行われていませんでした。特産品のPRについて、役場の方々が出張のときにパンフレットなどで宣伝している程度で、若い世代にも届くPRにはなっていないのが状況です。また、店の支配人しか詳しく知らない、店全体では情報を共有できていないという店もありました。スキンケア用品や和菓子など、辰野町らしい魅力的な商品があるのにそれを知っている人が少ないこともありました。したがって、私はこの状況を変えるために、町としてSNSをもっと活用していくことを提案します。例えば、インスタグラムやTikTokなどで若い人が楽しめる短い動画を発信

したり、特産品に貼られている認定シールを紹介したりすることで、町の魅力を伝えることができます。SNS を使えば町外の人だけでなく町内の若者にも、辰野町の良さを再発見してもらえるはずです。そこで質問です。辰野町として今後、SNS を活用した PR 活動を強化していく考えはありますか。辰野町には自然、食べ物、人の温かさなどたくさんの魅力があります。それを伝える力を育てることで、もっと多くの人に辰野町に行ってみたい、辰野町に住みたいと思ってもらえる町になると思います。町長の答弁をお願いします。

○町 長

はい。それでは武居議員へのご質問にお答えいたします。武居議員におかれましては、自ら調査をしていただいて認定特産品について SNS を活用した商品紹介、オンライン販売ができていない、商品説明が紙ベースのパンフレットのため、若い世代に届いていない、町の魅力的な商品があるのに知っている人が少ないのではないかなどの大変貴重なご意見と合わせて、それに対する提案としてインスタグラム、TikTok 等での動画配信を活用した町外の人や町内の若者へ町の魅力発信を強化して、町として伝える力を育てて欲しいとの、大変ありがたいお言葉をいただいております。感謝申し上げます。辰野町観光協会の認定特産品につきましては、各メーカーやお店がそれぞれに工夫をして、PR してもらうことを基本としておりまして、観光協会としてもホームページへの掲載や、東京や名古屋などで行うイベントで実際に販売するなど、特産品の宣伝に努めているところでありますが、議員がおっしゃるとおり、まだまだ知られていないのが実際のところでありまして、なお町では、SNS での情報発信として、主に LINE 公式アカウントを活用しており、町主催のイベントやお知らせを発信しております。そのほか、本年度においては YouTube を活用しております。第 77 回ほたる祭り動画などを公開しております。詳細につきましては担当課長より説明させていただきますが、武居議員のご質問にもあるとおり、町外の方や町内の若者への情報発信においては、インスタグラム等での動画配信は大変有効な方法であると感じておりますが、ご指摘のとおり、町として伝える力が少し弱いとも感じております。議員が感じておられる町の自然、食べ物、人の温かさを広く伝えるためには、情報発信、伝える力は確かに必要となるものであり、町としても今後注力していきたいと考えております。

○DX・地方創生担当課長

はい。武居議員ご提案のとおり、町としましても SNS、特にショート動画に関しましては、非常に有効であるということは感じておりまして、今年度よりいくつか取り

組みを始めております。実際にいくつかご覧いただければなあと思います。これは今年のほたる祭りのPR用に作成したショート動画になります。ショート動画ですので、スマートフォンで見るということを前提としておりますので、こういった縦型の映像ということになっております。これ全く同じ映像なんですけれど、英語版で同様の動画も作成しております。ちょっとこの議場の環境のためにちょっと音声は伝えられませんが、ちょっと映像だけにはなっちゃっていますけれど、実際の公開してるものには後ろに音楽等が流れているというような形になります。これは同じほたる祭りの中のじもといちの部分をPRするっていうような形で、ピッカリちゃんのパペットを使ったりしてPRをしております。こちらの映像の方はYouTubeのショートとかXとか、それからLINEのムーブなんか載せております。これは特産品とかふるさと納税の返礼品になりますけれど、ちょっと珍しいものがありましたので、こんなのも動画を作って紹介をして、ふるさと納税に繋げようということでこれも公開しております。これも同じふるさと納税の返礼品になります。「夜明け前」日本酒ですけれど、こちら認定特産品にもなっているものになろうかと思っておりますけれど、こちらの方も一応PRとして動画を作成しております。それとこれは町に今度新しくできました病児・病後児保育施設、こういった新しい町の施設も紹介するということでこの動画を作成しております。特にこれ利用者が若い世代が対象になってきますので、こういったものが有効かということで作成をしております。これは最近作りました辰野町の場所自体を紹介しようということで、短編の辰野町の場所を紹介する動画ということで作っております。はい。動画の方は以上になりますけれど、こういった動画とかSNS非常に有効であると思われまますので、武居議員がおっしゃられるように伝える力はとても重要になってきますので、今後もこういった活動には注視していきたいかと注力していきたいかと考えております。以上です。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

武居議員、よろしいですか。

○武居 美音 議員（9番）

前向きなご検討ありがとうございました。以上で私の一般質問を終わりにします。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

進行いたします。質問順位10番、議席10番、川上紋奈議員。

【質問順位10番 議席10番 川上 紋奈 議員】

『空き家の利活用について』

○川上 紋奈 議員 (10 番)

私は辰野中学校 3 年生の川上紋奈です。私たちのグループは、これまで住み続けたくなるまちを目指し、辰野町の空き家活用について調査してきました。まず、辰野町の現状について調べていくと小野や宮木に集中して空き家が多いこと、人口が減少し高齢化が進んでいることがわかりました。このことから、空き家を改装し自由に使えるスペースを作ることで、地域活性化に繋がるのではないかと考えました。しかし、実際に町に出て調査をしてみると、空き家には所有者が存在するため、自由に使えるスペースを作るのは難しいということがわかりました。ですが、辰野町にも空き家の持ち主と利用したい人をマッチングする空き家バンクの取り組みがあり、そこでは約 7 割が制約されていることがわかりました。さらに調べると、空き家バンク以外にも、空き家活用に向けた制度が整っていることがわかりました。そして調査を通して、今以上に辰野町のこうした魅力を町内外の人に知ってもらうことが必要だと感じました。そこで私たちは空き家を改装して自由に使えるスペースを作ることから、今、辰野町にある空き家活用の事業所や現状について、多くの人に知ってもらうため空き家を利用してもらえるまちづくりに変更しました。そして第 2 回の町調査では、実際に空き家活用を行う事業所の方にお話を聞きました。その中で空き家が多いイコール悪いことではない。大切なのは、そこに住む人や通る人が楽しいと思えることという言葉が印象に残りました。また、辰野は新しいことを始めるのにぴったりな町だという意見もありました。2 回の町調査を通して、辰野町を進み続けたい町にするために、空き家の持ち主と利用したい人をマッチングするイベントを増やすことと、その活動の宣伝が必要だと考えました。そこで提案です。スライドをお願いします。移住者をさらに増やすために、町が空き家を改修し、すぐに住み始められる状態にした上で、住み始めて 5 年間は賃貸、その後は安く販売することはできないでしょうか。特に子育て世代向けが好ましいと考えます。また、辰野町では以前、移住者に向けた相談会などといったイベントを東京で行っていました。同じようにして辰野町のことを知らない、より多くの人々に向けて移住者向けのイベントについての宣伝を行うことが必要だと考えます。スライドを消してください。以上のことから、移住者向けに空き家を利用した住宅の整備と、その宣伝を町に行ってもらうことを提案します。町長の答弁をお願いします。

○町 長

川上議員におかれましては、町の空き家の実態や、人口減少の状況をお調べいただく中で、移住者をさらに増やすために、移住者向けに空き家を利用した住宅の整備と、その宣伝を町に行ってもらおうといったご提案をくださり大変ありがとうございます。町の空き家の状況については、令和3年から4年度にかけて、空き家全棟調査を実施しております。この調査は適切な管理が行われていない空き家が防災、衛生、景観等の観点から、地域住民の生活環境に影響を及ぼしており、全国的な社会問題となっている中において、課題の整理や今後の利活用の方策を検討する際の基礎資料とすることを目的に、空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づいて行ったものであります。この調査は長期間、水道メーターが閉栓されている閉じられている物件を対象として実施しまして、調査方法は建物や敷地の状態など外観から調査を行い、対象物件に対して、空き家の状態に応じてAからEの判定分けをしております。A判定の建物に目立った腐朽破損、腐朽ちょっと難しい字ですが、腐って形が崩れる、そういった破損はなく、今後の利活用が見込まれるもの、B判定の外壁や屋根、窓等に一部修繕により、利活用が見込まれるものあわせて427件という結果が出ております。この調査の結果もふまえ、町では4月に発送する固定資産税の納税通知書等により、空き家バンクの取り組みを周知する中で、空き家バンクへの登録を進めております。近年では毎年30から45件程度は空き家バンクに新規登録され、20から30件程度が実際に売買や賃貸により成約となり、空き家を新たな方が利活用いただいている状況であります。続いて移住者を増やす取り組みに関してですが、現在も首都圏や中京圏を中心に、長野県の田舎暮らし楽園信州推進協議会が主催する移住相談会やセミナーに参加する中で、辰野町の魅力や暮らし方、また物件などの情報を来場された移住希望者へ発信しております。さらには移住を希望される方から、町への電話や来庁によるお問い合わせに対して同様に対応しているところでもあります。ご提案いただいている町が空き家を改修し、すぐに住み続けられる状態にした上で、住み始めて5年間は賃貸、その後、安価に安い値段で販売するという手法については、現在空き家バンクの物件をご案内する際に、売買を見据えて数年間賃貸をして、その期間中に検討いただくといった方法も取り入れております。これは知らない町へ移り住むといった大きな決断と、物件を購入することも大きな決断となることや、住んでみて描いていた生活と違うといったミスマッチを無くす意味でご案内しております。ご提案の手法の主なター

ゲットは、子育て世帯とのことです。移住をご希望の方は一戸建て賃貸、アパート、一戸建てで古民家のような物件の購入などご希望に幅がある状況であります。基本的に個人の資産となりますので、町が直接改修することは難しいですが、空き家バンクに登録してある物件に対しては、改修や家財の運び出しに対する補助制度を設けて、負担軽減を図っています。一方で、首都圏や中京圏など県外からの移住ではなく、勤務先があるまた車での交通の便が良い、自然環境に恵まれている等の理由で、辰野町へ県内市町村から移住する方も考えられますので、県内市町村から子育て世帯の移住を考えた際に、ご提案くださった内容も含め、研究させていただきたいと思います。また、辰野町を知ってもらう機会となるようなイベントなどについては、引き続き町外を含め積極的に情報発信させていただきます。いろいろご提案ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

川上議員、よろしいですか

○川上 紋奈 議員（10 番）

ご答弁ありがとうございます。空き家の活用を行うことは、ほかの地域から人を呼び込むだけでなく、辰野町に住む人々が明るく過ごせることに繋がると思うので、空き家の活用について、ぜひ前向きなご検討をお願いします。以上で私の質問を終わりにします。ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

以上で一般質問はすべて終了いたしました。

○議会事務局長

ここで本日の議長を務めました辰野中学校、一ノ瀬咲耶さんから挨拶があります。

○一ノ瀬 咲耶さん 辰野中学校

辰野中学校 3 年一ノ瀬沙耶です。生徒代表としてご挨拶申し上げます。本日はホテルの里中学生議会を開いていただきありがとうございました。私たちは、今日の議会ではいろんなことを提案するために、3 学年全員で総合の授業で、まず辰野町の良いところ、改善すべきところはどこかということをして1人ずつ挙げていくところから始まり、どうすれば辰野町がより良い町になるのか、具体的に挙げていき一人ひとりが違った角度からの提案がありました。そこから今日述べた提案にまとめました。これは私たち中学生が一生懸命考え、調べた提案です。この機会に耳を傾けてくださった議会の

皆様に感謝いたします。1つでもこの提案が基となり活かされて今より住み続けたい
なる辰野町になれば嬉しいです。改めまして本日はありがとうございました。(拍手)

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

続いて辰野町議会、舟橋議長より挨拶があります。

○舟橋議長 辰野町議会

皆さん大変お疲れ様でございました。また本日に至るまで両校の生徒さんをご指導
いただきました先生方、本当にありがとうございました。議会を代表して感謝申し上げ
ます。さて、皆さんの今日の質問をしっかりと企画していただきました。皆さん一
人ひとりそして場合によっては仲間と真剣に考えて、それを今日皆さんが堂々と発表
する姿はとても頼もしく感じました。この町には様々な課題がありますが、それを皆
さんがこの中学生のときにですね、向き合えたというのは貴重な経験になっていると
思います。皆さんの今回出していただいた質問は私たち議員、大人がなかなか気付か
ないそういう視点を持ったものも数多くありました。今後、辰野町がこの行政運営を
進めていく上で皆さんのご質問、ご要望、ご提案が運営の参考になるというふうに私
は信じております。また私たち議員も皆様から出されたお話を今後の活動の糧にし
てまいります。今回ですね、皆さんは辰野町について時間をかけて考えられたわけ
ですけども、皆さんが出された質問に対して思っていたほどですね、良い答弁が得られ
なかったものも中にはあったかと思えます。私がですね皆さんに今後期待したいこ
とがありまして、今回は皆さんが辰野町について深く考えて、今の皆さんが思うところ
を出していただいたわけですけども、今後は皆さん自身がどうしたら辰野町がよくな
るか、自分には何ができるかということについて、もう一步踏み込んで考え行動し
ていただきたいと思えます。先ほどですね質問いただいた貫井さん、貫井さん最後の方
にですね、私たちにできることがあればおっしゃってくださいという言葉を出して
いただきました。これからのまちづくりはこういう若い人たちが自ら参加して町を作
っていくと、こういう姿が求められます。今回質問いただいた中でですね、例えば茅野
さん、ピクトグラムっていうのもユニバーサルデザインの1つだと思いますけれども、
今、全国でもですねピクトグラムを自分たちで制作して、学校でそれを活用するつ
ていう例があったり、また新村さんと武居さんともに SNS の活用というものを町に訴え
られました。町では一部 SNS の制作がもう行われているという答弁ありましたけれど
も、皆さんインスタグラムとかですね ticktack なんかが使えるというお話さっき伺

ったんですが、そういう宣伝をですね皆さん自身がしていただいても全然良いわけですね。ですから町にしかできないこともありますし、皆様中学生でもできる事があると、そういう一歩踏み込んで自分でも何かできるんじゃないかと、そういうことを今後ぜひ考えて町のためにも皆さんのお力を借りたいというふうに思っております。皆さん、これから明るい未来が待っています。そして皆さんの力でぜひ明るい辰野町を作っていただくことを期待しております。本日は大変ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

続いて、宮澤教育長より挨拶があります。

○教育長

はい。中学生議員の皆様、大変お疲れ様でした。そしてまたありがとうございました。皆さんは辰野町が抱える様々な課題について、中学生の視点から質問を出していただきました。どうですか、緊張しましたか。さて中学校では3年間、この辰野町について学ぶ学習を組み、皆さんは町を歩き町の現状と課題を整理し、その集大成が今日のこの中学生議会となっております。町としましても、将来を担う中学生たちに自分の夢や思い、希望を織り交ぜながら、中学生の視点から町政に対する意見や要望を出していただき、今後の町政に反映させるとともに、政治に関心を持っていただきたいとこんなことを目的として行っております。今日の中学生議会では住み続けたい辰野町へというテーマのもと、幅広く重要な課題を指摘していただきました。今年は初めてスライドを使って説明をする、質問をするということがございました。またアンケートをもとに資料を作り、より説得力のある質問になったということ、さらには再質問もいくついただきましたし、答弁の後、再び自分の考えや思いを伝える等大変印象的でした。どの質問も中学生の皆さん一人ひとりが友だちと協力をして、何が提案できるのかを真剣に考えてくれました。中には私たち大人が気付かない視点からも質問をいただいたことは、町にとりましても中学生から大きなエールをいただいたものであり、大変頼もしく思いました。皆さん一人ひとりの努力により、大変素晴らしい中学生議会を作り上げていただいたこと感謝申し上げます。そしてまた、態度も実に立派でした。この間、熱心にご指導いただきました校長先生はじめ、先生方にはこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。皆さんは今、中学3年生です。あと3年もすれば選挙権が与えられます。町議会をはじめとする議会や政治は皆さんにとってもう身近な存在です。今日のこの経験を活か

して、さらに学び立派な大人、立派な辰野町民になっていただくことを願います。皆さんの今後の期待を込めて、辰野町教育長からの挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

○議長（一ノ瀬咲耶さん）

以上でほたるの里中学生議会を閉会といたします。大変ご苦労さまでした。

9. 閉会の時期

11月4日 午後4時39分 閉会

この議事録は、議会事務局長 菅沼由紀、庶務係長 原梢の記録したものであって、内容が正確であることを認め、ここに署名する。

令和7年12月25日

辰野町議会議長

署名議員 1番 堀内 珠泉

署名議員 2番 岩本 紳吾